

## 会 議 録

- 1 会議名  
第2回阿賀野市地域福祉計画策定委員会
- 2 開催日時  
平成26年3月17日（月） 午後1時30分から午後4時00分まで
- 3 開催場所  
阿賀野市役所別館 3階 303会議室
- 4 出席者（傍聴者を除く。）の氏名
  - ・出席：川上兵剛、田村廣治、町田睦美、八木美代子、山岸勲、山崎美千子、上村正朗、中村彰男、折居千恵子、井上秀子、目黒裕、小菅章義
  - ・欠席：長谷川信子（13人中12人出席）
  - ・事務局：仁谷社会福祉課長補佐、塚野福祉企画係長（計2人）
- 5 議 題（公開・非公開の別）
  - (1) 阿賀野市地域福祉計画 市民・自治会長アンケート結果について（公開）
  - (2) その他（公開）
- 6 非公開の理由  
なし
- 7 傍聴者の数  
0人
- 8 発言内容
  - (1) 開会（仁谷社会福祉課長補佐）
  - (2) 委員長あいさつ（町田委員長）
  - (3) 新委員の紹介（川上委員）
  - (4) 講演「地域福祉計画の必要性とわかりにくさ」川本 健太郎氏

(5) 議題 1) 阿賀野市地域福祉計画市民・自治会長アンケート結果について

委員長：議題1) 阿賀野市地域福祉計画市民・自治会長アンケート結果について、事務局より説明を求める。

事務局：議題1) 阿賀野市地域福祉計画市民・自治会長アンケート結果について、資料により説明する。

委員長：意見・質問を求める。

A委員：アンケート結果を見させてもらったが、内容的に素晴らしいと思った。日本で一、二を争う地域福祉の先進地である豊中市や宝塚市で同じアンケートを取っても、こんな結果は出てこないと思う。

「隣近所の支え合いが大事である」や「ボランティアをやりたい」などでこれだけ高い数値が出ており、先進地がうらやましがる結果となっている。要は、今後そういう住民の思いを我々がどう組織化するか、支援が必要な人と支援できる人をどうマッチングするか、そこだけ考えていけばよいと思う。社会福祉協議会がいらないくらい、住民は助け合いの気持ちを持っている。都市部と比べて阿賀野市の財産であると思う。後はマッチングする仕組みだけあれば良い。

B委員：この調査の他に、今年度にも子ども・子育てのニーズ調査、障害者の調査、男女共同参画の調査があった。その結果を見ると、総じて「相談する場所・相談室が欲しい」という意見が多くあったので、これも一つのキーワードになるのではないかと思う。

A委員：阿賀野市では小地域での福祉活動はやられているか。自治会の福祉委員を中心にやっているようなことはないか。

副委員長：若葉町では子どもたちの登下校の見守りを、雨の日も風の日もやっている。素晴らしいことだと思って見ている。

C委員：若葉町では、その他に福祉部というものをつくっている。お年寄りと歌を歌ったり、作品をつくり文化展で発表したり、お年寄りの生きがい対策をしている。近隣の町内も一緒になって活動している。

民生委員は各町内にいるのか。

事務局：町内で1人いるところもあるが、複数の町内で1人のところもある。

D委員：民生委員からお答えする。民生委員が何でも相談を受けることが理想であるが、住民は生活保護や介護など限られた問題でのみ相談に来る。1回きりの相談などは少ない。

B委員：民生委員の活動があまり知られていないというのは、住民は経済的な問題等、他人に知られたくないことを相談しにくいためである。民生委員はそれに配慮しているため、自分が相談員だということを大々的に知らせては活動ができないということもあり、こういう状況になっている。

- C委員：自治会長と民生委員が相談の日を設けるなど取り組むことはできないか。
- D委員：民生委員として知られている人が、足しげく通っているのを見られると、その家が逆に差別されるようで嫌がる人もいる。
- B委員：昔から民生委員の世話になること、イコール生活保護を受けている世帯というイメージがあるため、気にする人は多くいる。
- C委員：民生委員が家庭訪問するのではなく、自治会の集会所等で自治会長と民生委員が相談相手になるというのも活動の方法の一つであると思うが、どうか。
- E委員：自治会長は1～2年で交代するところが多い。画一的に同じ手法をとることは難しい部分がある。
- D委員：守秘義務の関係もある。
- A委員：例えば引きこもりの人がいる、失業して困っている人がいるなど誰かが見つけたら、その情報をつなげる先が組織的にできていればいい。そしてつながったところが組織的に検討し、どのように支援していくかを決めていけばよい。阿賀野市のどこに住んでいても、困っている人を見つけた情報がしかるべきところにつながり、しかるべき対応ができるような仕組みをつくるのが地域福祉計画だと思っている。
- 介護保険のような公的なものは行政、ごみ出しのようなものは公的なものではないため地域のボランティアにやってもらうなど、どこに住んでいてもできるようなものをどうやってつくっていくかだと思う。そこが縦割りではない地域福祉計画の大事なところである。
- E委員：最近一番行政で動いていることとしては、自主防災組織を全自治会で今後2年間のうちに100%つくる計画がある。現在の活動では、形式的な自治会もあるが、充実した活動ができているところもある。災害時には誰がどこの要援護者を担当するかまで決めつつある自治会もある。また、高齢福祉課では、今冬から自治会で高齢者世帯の玄関先の除雪による道付けを試験的に始めた。次年度から制度化する予定である。その取り組みをしてくれる自治会へは、若干ではあるが市が補助するもので、今動き出したところである。
- F委員：健康推進課では健康推進員が自治会に1名以上ずついらっしゃるの、これからは健康だけに特化することなく、やれる自治会であればその健康推進員も地域福祉の担い手になることは十分可能であると思う。
- C委員：福祉推進委員というものを自治会につくってもよいのではないか。
- F委員：若葉町は福祉推進委員と健康推進員が一緒になって活動している。
- C委員：そういう活動を上から行政がやるのではなく、下から盛り立てていくような形であれば長続きするのではないか。市民が自分たちの力でやっていくというようにならなければ、おそらく長続きしないのではないかと感じている。
- 副委員長：先ほど上村委員から阿賀野市に対してお褒めの言葉をもらったが、一方で、

一般の人の回答率が44%であるということは、答えていない人は56%いることになる。この回答率では社会福祉に対して積極的な答えが多かったとしても、そのまま間違いがないとして捉えて良いのか心配であるが、先ほどの講演を聞いていると、阿賀野市でもあるきっかけをつくれれば、福祉に限らずさまざまな分野で、相当良い活動ができるのではないかと思った。

A委員：地域福祉計画のスローガンは、「福祉のまちづくり」ではなく「福祉でまちづくり」である。福祉を一つの定義として、自治会、地域を活性化しようとする事なので、この回答率でも大丈夫だと思う。要支援者の数からすれば44%の回答率の中の約60%が何かをやりたい人であれば、その数がきちんとマッチングするだけで十分だと思う。

副委員長：きっかけづくりでいろいろな話を投げかけていけば、本来の目的達成に近づいていくのではないかと考えている。

#### (5) 議題 2) その他

委員長：議題2) その他で事務局より説明を求める。

事務局：社会福祉協議会から選出の委員が人事異動により4月より変更となる予定である。要綱では社協からの委員を委員長とすることにはなっておらず、委員会の互選で決めることになっている。ただし、社協からは、今後行政と社協と一緒に地域福祉計画・地域福祉活動計画を策定していく予定であり、これを機会に委員長からはずしてもらいたいとの要望も含めて議論してもらいたい。

G委員：社協の地域福祉課長は老人クラブからサロン活動ほかさまざまな職を持っている。そこにまた委員長の職が加わることは大変だと思う。

A委員：社協から後任が決まっているのであれば、現役の福祉に携わっている人が新しい知識や情報を持っているので、その人が一番よいと思う。

委員長：福祉畑は初めての人が後任になるため、おそらく面食らうことになると思うので、できれば現委員から委員長を選出していただきたい。

A委員：みんな素人なので大丈夫だと思う。

C委員：副委員長が委員長となるのはどうか。

事務局：最後は多数決となると思うが、新しい社協からの委員が委員長になる方法と副委員長が委員長になる方法、また白紙の状況で全委員から選出する方法があるが、どうか。

G委員：現副委員長が委員長になるのがよいと思う。

事務局：他の皆さんもそれでよいか。

B委員：副委員長から委員長になってもらい、地域福祉の担い手である社協からの新

たな委員は副委員長という形でどうか。

≪「異議なし。」という声多数あり≫

委員長：審議会の閉会を告げる。

9 問い合わせ先

社会福祉課福祉企画係 TEL：0250-62-2510（内線 230）

E-mail：[shakaifukushi@city.agano.niigata.jp](mailto:shakaifukushi@city.agano.niigata.jp)